

平成27年9月12日(土)

平成27年度第6回運動実技講演会並びに研修会

震災後子どものケアプロジェクト「PEP UP KORIYAMA」

「幼児期運動指針」とは

～ わが国初の身体運動ガイドライン ～

山梨大学教育人間科学部長

大学院教育学研究科長

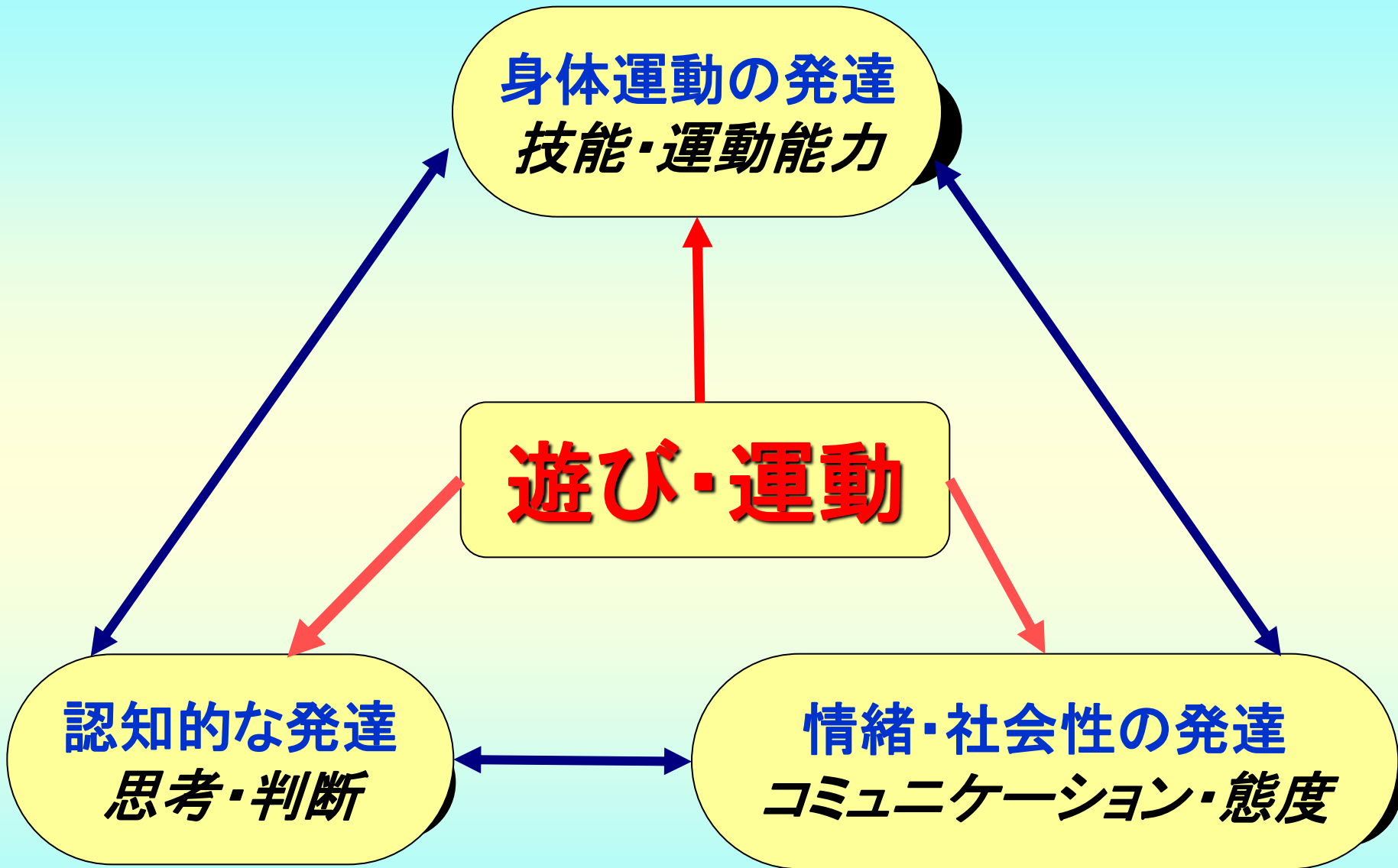
中村 和彦

身体運動の発達
技能・運動能力

遊び・運動

認知的な発達
思考・判断

情緒・社会性の発達
コミュニケーション・態度



小学校 高学年



11歳～

言われたことを理解して
行うことができる段階

いろいろなスポーツを行う

小学校 低・中学年



10歳～

6歳～

いろいろな運動がうまく
できるようになる段階

動きを組みあわせる,
リズムにあわせて動くなど

幼児期



5歳～

3歳～

いろいろな運動が
できるようになる段階

走る, とぶ, 投げるなど
基本的な運動

乳幼児期



2歳～

0歳

生まれつきできる
運動の段階

寝返りをうつなどの反射運動,
座ったり, 歩いたりなど基礎的な運動

幼児期運動指針

ガイドブック

毎日、楽しく体を動かすために

幼児期運動指針策定委員会



幼児期運動指針

普及用パンフレット

幼児期運動指針策定委員会

幼児は

様々な遊びを中心に、
毎日、合計60分以上、
楽しく体を動かす
ことが大切です！

- ※この指針は、運動習慣の基盤づくりを通して、幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力の基礎を培うとともに、様々な活動への意欲や社会性、創造性などを育むことを目指すものです。
- ※幼児にとっての運動は、楽しく体を動かす遊びを中心に行うことが大切です。また、体を動かすことには、散歩や手伝いなど生活の中での様々な動きを含めます。

※この指針における幼児とは、3歳から6歳の小学校就学前の子どもを指します。

「幼児期運動指針」策定の背景

文部科学省では、子どもの運動習慣や生活習慣の改善を目指して…

2004～2006年度：小学生を対象とした体力向上事業

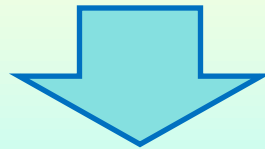
2007～2009年度：幼児期における体力向上の基礎を培う
実践活動の在り方に関する調査研究

2008年度～：全国体力・運動能力、運動能力等調査

子どもの体力を向上させる取り組みは…

「日本体育協会」「日本レクリエーション協会」「日本トップリーグ連携機構」

「日本発育発達学会（幼少年体育指導士）」「民間企業（屋内運動施設）」



文部科学省は2012年3月に、

我が国初めての「幼児期運動指針」を策定！

日本体育協会「アクティブチャイルド60分」

日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会

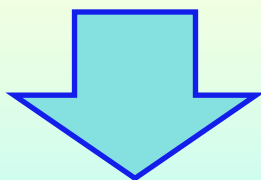
「日本の子どもにおける身体活動・運動の行動目標設定と効果の検証」

→ **子どもの身体活動ガイドラインに関する理論的・実証的研究を実施**

文部科学省「子どもの体力向上事業」をもとに、

「1日60分以上の身体活動・運動」を最低限のガイドラインとして提案

→ 具体的には、身体活動を伴った遊び、生活活動、体育・スポーツを含めた1日に最低60分以上の身体活動を実施することとした。



普及啓発事業として…

「アクティブ・チャイルド60min」の出版（2010年4月）

「アクティブ・チャイルド・プログラム」の作成（2010年10月）

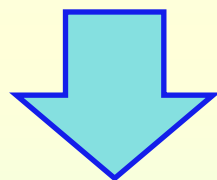
日本学術会議



「子どもを元気にする運動・スポーツの 適正実施のための基本方針」

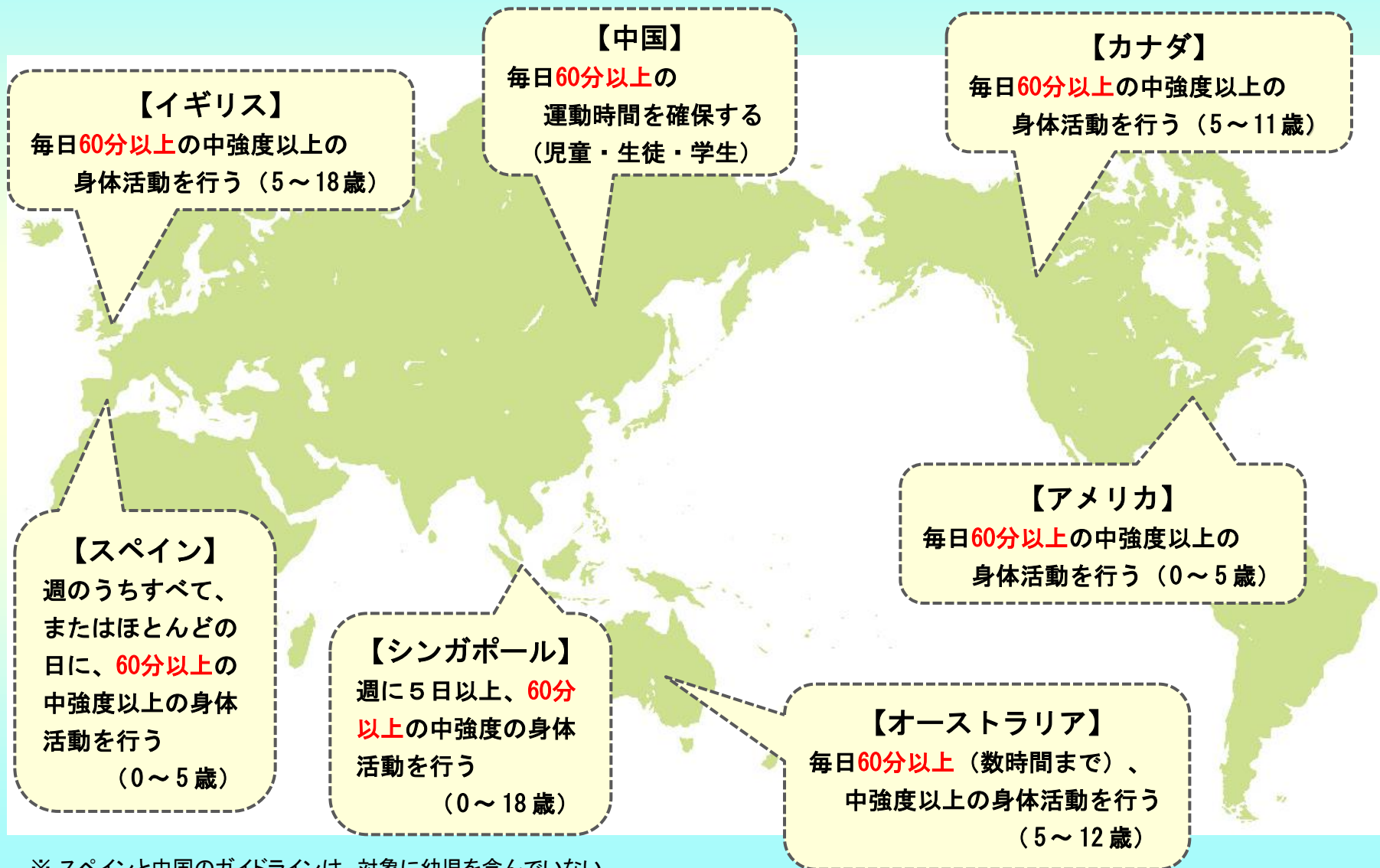
2008年 8月 日本学術会議 健康・生活科学委員会

「子どもを元気にするための推進体制の整備」 を提言



- ① 子どもの運動指針を緊急に作成すべきである
- ② そのために、より一層のエビデンスの蓄積に取り組むべきである
- ③ 質の高い子どもの運動の指導者養成を図るべきである
- ④ 子どもを取り巻く大人の理解を深め、学校・大学における身体活動、運動・スポーツの実践的・科学的教育を充実すべきである

世界の「子どもの身体活動におけるガイドライン」



幼児期の運動促進に関する普及啓発事業

【現状】

子どもの現状として、「転んだ時にとっさに手がつかない」などの身体を操作する能力低下、運動意欲の低下および体を動かす機会の減少が指摘。



幼児期に習得しておくことが望ましい基本的な動作などを示した

「幼児期の運動指針」を作成（平成23年度）



【目的】

地域の実情に応じた幼稚園等を対象とした運動促進方策の実践研究

【内容】

「幼児期の運動指針」を踏まえ、日常の活動の中で取り入れられる効果的な活動パターン等を含んだプログラムを開発するための実践研究を実施

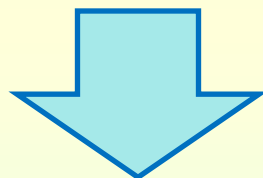
これまでの取組、現状と課題

平成19年度～平成21年度

「**体力向上の基礎を培うための**

幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究」を实践

（健やかな子どもを育むための取組の検討と実践の検証を実施）



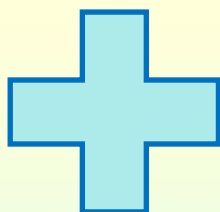
しかし、現状においては……

体力・運動能力低下の低年齢化・二極化を解決するためのより一層の取組が課題である。また、子どもの体力・運動能力の現状について、保護者や地域住民に積極的に発信し、「**保育所・学校・家庭・地域**」が一体となった取組が必要である。

これまでの取組、現状と課題

子どもの体力・運動能力を向上させるためには……

「幼児期運動指針」に基づき、保育所での運動遊びと家庭での自由遊びの充実を通して、幼児の運動を促進し、**幼児の基本的な動きの習得と、身体活動量の増大**を目指していく。



さらに……

日常的に運動に親しみ、運動を継続して実践する子どもを育てていくために、保育者の認識を深め、保護者や地域住民の意識を高めていく。

事業目的

幼児期の運動指針を踏まえて、保育所等を対象とした地域の実情に応じた実践研究を行うとともに、理解促進を図るための保育所教諭や保護者等を対象とした実践研究委員会を開催することにより、幼児期の運動促進を図る。



実践プログラムの観点

- ◆ 発達の特定に応じた遊びの提供
- ◆ 多様な動きを経験できる遊びの工夫・開発
- ◆ 地域や幼稚園等の実情を踏まえた
特色ある遊びの工夫・開発
- ◆ 体を動かす機会の確保
(例：全園運動タイムの設定、お手伝いの奨励)
- ◆ 保育士の資質の向上

実践プログラムの具体的観点

1. 保育所内での発達段階に応じた体を動かす遊びの提供

- ◆ 発達段階に応じた**多様な動き**の獲得を目指した運動遊びを提供する
- ◆ **毎日60分**の自由な運動遊びを設定し、身体活動量を確保する
- ◆ 保育所に**プレイリーダー**を派遣し、体を動かす遊びの充実を図る
- ◆ 園内の子どもの**遊びの環境**を見直し、遊びの充実を図る

2. 保護者・地域住民への啓発

- ◆ **調査**とチェックリストによって、運動習慣・生活習慣を見直す
- ◆ **保護者向け講演会**を開催して、保護者の意識の変容を図る
- ◆ **親子**で運動遊びをする機会を設け、遊びの重要性を発信する
- ◆ **機関誌**を通して、保護者や地域住民の関心を高め、認識を深める

実践プログラムの具体的観点

3. 遊びの工夫・開発と保育士の資質向上

- ◆ **保育士の研究会**において、発達段階に応じた体を動かす遊びを工夫・開発する
- ◆ 保育士を対象とした**運動遊びの研修会**を開催し、体を動かす遊びを工夫・開発する
- ◆ 保育所の**内部研修**で、保育士の資質を向上させる



遊び時間の充足



時間

遊びの必要条件

3つの間

空間

仲間



仲間の存在

空間の充実



プレイリーダー



あそびを支える **プレイリーダー** の存在

プレーリーダー とは・・・

- **ドイツ** : 保育園・幼稚園で、スポーツユースと連携して働く「ガキ大将」
- **オーストラリア** : AASCの展開の中心的役割として雇用している「プレーデリバラー」
- **羽根木プレーパーク** : 1979年(昭和54年)に日本にはじめて開設された「冒険遊び場」におかれた子どもの遊びの専門家
- **ボーンヘルンド「キドキド」・イオン「スキッズ・ガーデン」** : 室内での運動遊びの「仕掛け人」
- **JTL** : 「ボールであそぼう」マイスター

プレーリーダーの役割

- 子どもがいきいきと遊ぶことのできる環境をつくる。
- 子どもの興味や関心を引き出す遊び場の整備。
- 遊び場の状況に応じた子どもへの声かけ。
- いっしょに思いきり遊び、子どもが厚い信頼をよせる相手となる。
- 大人(保護者)に子どもにかわって子どもの気持ちを伝える。

幼児期運動指針

2012.03.28通知

文部科学省・厚生労働省より、都道府県知事、都道府県・指定都市教育委員会、保育所・保育園担当部局に通知

「ガイドブック」「普及用パンフレット」を配布

1. 幼児を取り巻く社会の現状と課題
2. 幼児期における運動の意義
3. 幼児期運動指針策定の意図
4. 幼児期の運動の在り方
 - (1)運動の発達の特性と動きの獲得の考え方
 - (2)運動の行い方

4. 幼少児期の運動の在り方

(1) 運動の発達の特性と動きの獲得の考え方

「動きの多様化」「動きの洗練化」

年齢別に、運動発達の特性と経験しておきたい遊び
(動き)の例示

(2) 運動の行い方

- ① 多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れること(特定なスポーツのみでは問題がある)
- ② 楽しく体を動かす時間を確保すること
→ 毎日、合計60分以上を目安に
- ③ 発達の段階に応じた遊びを提供すること

健やかな子どもを育む

—3つのKEY WORDS—

統一性：目的・重要性の共通理解

構造化：地域のネット、モデル化

継続性：長期的な取り組み

2020東京オリンピックムーブメント & レガシー

日本の子どもすべてを元気にする 「遊びキッズニア・遊びバイキング構想」

- ・ 幼児・障がいを持つ子ども・運動が苦手な子ども・運動が嫌いな子ども・体力が低い子ども
だれもが遊び・運動できる仕組みづくり

日本の子どもすべてに遊びを届ける 「プレイリーダー育成事業」

- ・ おもしろくのめり込む遊び・運動を子どもに届け、子どもの成育をみながら、少しずつ身を引いていくことを理解・認識したおとなの育成

「人との関わり」とは……

日本の若者たちの答えは？

「無償の愛・交友」 五木寛之

「二人称の死・二人称の命」 柳田邦男

「ここにひとが棲む」 金森俊郎

「人を想うところ」である。

ありがとうございました。

**本日は、私の話をお聞き頂き、
ありがとうございました。子ども
達とともに、皆さん自身が心豊か
に健やかな日々を送られることを
心より祈念いたします。**

山梨大学教育人間科学部長

大学院教育学研究科長 中村和彦

kazuhiko@yamanashi.ac.jp